

**第 3 6 8 回**  
**日 本 泌 尿 器 科 学 会 新 潟 地 方 会**  
**《 プ ロ グ ラ ム ・ 抄 録 》**

日 時：平成 2 5 年 1 2 月 7 日（土）午後 4 時 0 0 分  
会 場：新潟グランドホテル 4 階 『メイプル』  
新潟市中央区上大川前通 3 ノ町 025-228-6111

次回 第 3 6 9 回新潟地方会予告  
日時：平成 2 6 年 3 月 1 5 日（土）午後 3 時  
（高橋公太教授退任記念新潟地方会）  
会場：  
演題申込期限：平成 2 6 年 2 月 5 日（火）

- ※ すべて PC のみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7 分。討論 3 分（時間厳守）

951-8510 新潟市中央区旭町通 1 の 7 5 7  
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野  
**日本泌尿器科学会新潟地方会**  
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784  
会長 高 橋 公 太

### 1. PSA 経過観察中に短期間で急速に病勢進行した前立腺癌の一例

厚生連長岡中央総合病院 泌尿器科  
結城恵里、山名一寿、高橋英祐、照沼正博

症例は73歳男性。2010年末、近医でPSA 8.0 ng/mlを指摘され、翌年1月、当院を初診した。PSA再検にて6.3 ng/mlと低下を認め、内服で下部尿路症状が改善したことから患者はPSA経過観察を希望した。同年11月に腰痛のため整形外科を受診し、PSA 1106 ng/ml、画像所見などから前立腺癌、骨転移と診断された。3月に当院で前立腺生検および外科的去勢術を施行し、各種治療を行ったが、病勢進行により2013年10月に原病死した。PSA経過観察中、1年未満に急速な病勢進行を認め、短期間で死亡に至った症例を経験したので報告する。

### 2. 去勢抵抗性前立腺癌に対するケトコナゾール治療の経験

新潟大学腎泌尿器病態学分野  
安藤 嵩、西山 勉、高橋公太

ケトコナゾールはCYP17というアンドロゲン合成・代謝に重要な酵素の阻害作用を持つ抗真菌薬である。欧米では去勢抵抗性前立腺癌（CRPC）の治療薬として実績があるものの、日本ではCRPCに対するケトコナゾールの臨床応用はほとんど行われていない。今回、ドセタキセル後のCRPCに対してケトコナゾール治療を開始した1例の経過を報告するとともに、CRPC治療薬・CYP17阻害薬としてのケトコナゾールを紹介する。

### 3. 去勢抵抗性前立腺癌に対してドセタキセルを投与した18症例の検討

新潟労災病院 泌尿器科  
黒木大生、羽場知巳、小池 宏

去勢抵抗性前立腺癌に対するドセタキセル化学療法は、今や標準治療として確立されたと言える。当院にてドセタキセルをベースとした治療を行った、去勢抵抗性前立腺癌18症例を対象とし、治療成績について後ろ向きに解析した。対象の年齢の中央値は69.5歳、開始時PSA値の中央値は45.7ng/ml、治療回数の中央値は7回であった。PSA値が50%以下に低下した症例は13症例であった。無増悪生存期間、全生存期間の中央値はそれぞれ5.5ヶ月と17ヶ月であった。血液毒性としてG3の好中球減少を2例(11.1%)認めた。治療成績については諸家の報告と同程度であり、ドセタキセル化学療法は有効な治療法であると考えられた。

### 4. 当院における腎血管筋脂肪腫の治療症例の検討

県立がんセンター新潟病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、同放射線治療科<sup>2)</sup>  
山崎裕幸<sup>1)</sup>、北村康男<sup>1)</sup>、小林和博<sup>1)</sup>、斎藤俊弘<sup>1)</sup>、関 裕史<sup>2)</sup>

当院では1990年1月より2013年9月まで47名(51症例)に対し、腎血管筋脂肪腫(AML)の治療を行った。年齢の中央値は54歳(32-77歳)、男性14名、女性33名、腫瘍径の中央値は5cm(1.5-17cm)であった。治療は1900年代は腎摘10例、部分切除9例、塞栓術1例に対し、2000年代では腎摘6例、部分切除14例、塞栓術11例であった。最近の症例では、腫瘍径の大きな例や、破裂した例でも腎温存が可能であった。

## 5. 経会陰的前立腺生検を施行した初期症例の検討

新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野

瀧澤逸大、笠原 隆、原 昇、谷川俊貴、西山 勉、高橋公太

当院では経直腸的生検法を用いてきたが、2012年2月より経会陰的生検法を開始し2013年4月からは第一選択法としている。これまでに69例を施行し、平均年齢は67.5歳(49 - 84歳)、PSAは0.9 - 1087.3ng/ml(中央値12.8ng/ml)であった。全体の癌検出率は60.9%(42/69例)であり、PSA4-10ng/mlでは50.0%(10/20例)であった。合併症なく施行できており有用であると考えられた。

## 6. 低濃度局所麻酔による日帰り経会陰式前立腺生検の経験

会津クリニック

玉木 信

会津クリニックでは、2012年9月より外来前立腺生検を胸膝位経会陰式16箇所生検に変更、麻酔を2%キシロカインゲル直腸内注入と0.625%~1%キシロカイン15~20ccによる会陰部局所麻酔の併用としていた。2013年3月からは会陰部局所麻酔を0.25%キシロカイン30ccに統一した。麻酔の痛みと生検の痛みをそれぞれFACES Pain Rating Scaleにて評価したが、生検時の痛みは麻酔自体の痛みより軽度であり、許容範囲と判断された。合併症も軽度肉眼的血尿のみであり、外来日帰りにも充分施行可能と思われた。

## 7. monarc™経閉鎖孔システムを用いたTOT中部尿道スリング手術の経験

新潟県立新発田病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、高橋クリニック<sup>2)</sup>

波田野彰彦<sup>1)</sup>、鈴木一也<sup>1)</sup>、宮島憲生<sup>1)</sup>、高橋 等<sup>2)</sup>

2012年9月に発売された日本初のTOT手術専用キットを用いた女性腹圧性尿失禁手術を2例経験した。症例1は83歳の混合性尿失禁で、症例2は73歳の腹圧性尿失禁。いずれも手術を希望し受診、尿失禁のタイプは内因性括約筋不全(ISD) >尿道過可動(UH)であった。手術の効果や合併症に対する不安などから一時手術を躊躇する場面もあったが、合併症の少ないTOTを選択し、術後自覚的・他覚的に満足な改善効果が得られた。TVTに比較しISDには効果がやや劣るとされるTOTだが、本キットによるTOTは安全、簡便で有用な術式と思われた。

## 8. 全国済生会泌尿器科医会の発足と当院の役割

済生会新潟第二病院泌尿器科

吉水 敦、車田茂徳

全国に済生会病院は79施設あるが、今までは泌尿器科医師間の横のつながりはほとんど見られていなかった。恩賜財団済生会に属する一つの診療科が、共通の目標をもってスケールメリットを有効に活用すれば診療上大きなメリットが得られるとの考えより2011年済生会熊本病院病院長副島秀久先生の提案で『全国済生会泌尿器科医会』がつけられた。会則で『泌尿器科診療に関与する者をもって組織し、人的交流、情報交換、共同研究などを通して済生会施設における泌尿器科診療の充実、連携を図ることを目的とする。』と謳っている。現在までに、全国済生会泌尿器科医会総会を3回・スキルアップセミナーを2回開催し基礎固めが終了した段階である。当院泌尿器科は研修医等にアピールできる実績があり他施設にない技術をもっているとして期待されているので、その期待に応じて学問にとらわれない全国規模の新しいつながりをつくり日本の医療の活性化に貢献するために積極的に活動していく予定である。

17:20～17:40

司会 谷川俊貴

【ミニレクチャー】

胸腺の老化

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野<sup>1)</sup>

Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, United States<sup>2)</sup>

田崎正行<sup>1)</sup>、山田和彦<sup>2)</sup>

胸腺は胸腔に存在し、T細胞の分化、成熟など免疫系に関与する臓器であるが、年齢とともに退縮する。我々は、主用組織適合抗原（MHC）が確立された MGH miniature swine を利用し、12日間のカルシニユリン阻害剤で免疫寛容を誘導する大動物モデルを使用している。このモデルにおいて、老化した胸腺では免疫寛容を維持できないことが分った。そこで、胸腺の老化のメカニズムについて調べた。Young thymus→Adult pig、Adult thymus→Young pig、Adult thymus→Adult pig の3群において胸腺が若年化・老化するか、さらに免疫寛容を誘導できるか検討した。また、胸腺の老化に関連する因子についても加えて考察したい。

《休憩 17:40～18:00》

新潟泌尿器科同窓会総会

18:00～18:30

[ 会場 4階 メイプル ]

新潟地方会・同窓会合同懇親会を総会終了後3階「悠久の間」で行います。

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。